

平成28年度 宇部市公共交通協議会（計画策定） 第3回会議

日時：平成29年（2017年）1月26日（木） 14:00～16:00

場所：宇部市役所 4階 第2・3・4委員会室

出席者：17名（欠席者3名）

榊原会長、若本副会長、福本委員、綿部委員、辻野委員、河内委員、
真辺委員（代理出席）、宗像委員、石井委員、松島委員、福澄委員（代理出席）、
浜口委員（代理出席）、竹重委員、名越委員、山根委員、西村委員、片岡委員

事務局：4名

庄賀総合政策部次長、篠原政策企画課課長、濱原政策企画課課長補佐、伊藤主任

関係者：2名

(株)バイタルリード（計画策定受託事業者）

次第：1 会長あいさつ

2 第2回会議の御意見等について

3 議事

(1) 路線バス見直しの方向性について（宇部市交通局）

(2) 宇部市地域公共交通再編実施計画（素案）について

4 その他

1 会長あいさつ

2 第2回会議の御意見等について

事務局から、第2回会議終了後に提出された意見等に対する回答を行う。

3 議事

(1) 路線バス見直しの方向性について（宇部市交通局）

宇部市交通局から、平成29年10月以降のバス路線の見直しの方向性について、第2回会議からの変更点等の説明を行う。質疑等は以下のとおり。

【会長】

市街地循環線は、まちなかの公共交通の利便性向上のため、琴芝のような人口が多い地区を回る短い路線にするのが良いと思います。

めぐり一なは、主要な施設等を回るため、運行ルートの見た目の分かりやすさが重要となります。このため、利便性との両立は難しいところもあります。

【宇部市交通局】

めぐり一なは、現在、大学病院内に双方向から乗り入れています。見直し後は、

片方向のみの乗り入れとなる予定です。

一方で、市街地循環線は、見直し後に、大学病院内に双方向から乗り入れるようになりますので、宇部新川駅から大学病院へ行くには、市街地循環線を利用させていただきたいと思います。

めぐり一なは、見直しにより空港方面から ANA クラウンプラザホテル、宇部国際ホテルに行きやすくなりますが、大学病院に行くには、記念会館前バス停で降りて歩くか、市街地循環線等に乗り換える必要があります。

市街地循環線とめぐり一なの役割を明確にするため、重複区間はできるだけ短くしており、めぐり一なは常盤町一丁目方面へのアクセスはなくなりますが、常盤町一丁目は運行頻度が高い主要幹線に設定されているため、利用者への影響は少ないと考えています。

(2) 宇部市地域公共交通再編実施計画（素案）について

宇部市地域公共交通再編実施計画（素案）に基づき、事務局から説明を行う。質疑等は以下のとおり。

【委員】

めぐり一なの目的は、朝夕の通学便（宇部高専、宇部中央高校等）の補完なのか、ときわ公園などの観光周遊なのか教えてください。

また、宇部新川駅を結節点とすることは、JR との接続を優先して考えると、宇部新川駅～常盤町二丁目間は複数の便が重複運行するのではないのでしょうか。等間隔運行は、JR との接続を考えるとどうなるのでしょうか。

【宇部市交通局】

めぐり一なは、山口宇部空港からときわ公園や山口大学工学部など市内の主要施設への移動を担っていますが、一方で、周辺住民のフジグラン宇部等の生活利用にも使われています。

このため、観光客など来訪者の移動だけが目的ではなく、日常生活の移動手段を確保するという目的も持って運行しています。

【事務局】

主要幹線での等間隔運行は、9時から16時の日中の時間帯となります。

利用者の多い朝夕の時間帯は、JR の運行時間に合わせて等間隔運行時間帯以上の便数を運行します。

路線バスの運行ダイヤを調整していくことで、重複運行はある程度回避できると考えています。

【会長】

宇部新川駅から大学病院への移動は、市街地循環線が担う方が良いと思いますが、めぐり一なが、フジグラン宇部に寄るかどうかは検討していく必要があると思います。

人口が集積する常盤町付近では需要も多く、重複運行はやむを得ないところであり、中心市街地なので、まちづくりの視点から積極的に路線バスを活用してもらいたいと思っています。

【会長】

平成29年9月末で廃止予定の桃山線や中山線についての地元への説明は始めていますか。

【事務局】

平成28年6月以降、各地域において宇部市交通局主体で説明会を実施しています。市の政策企画課も同行し、地域内交通導入の可能性などについて説明をしています。

【会長】

旧丸尾港線（現中央病院線）は、再編案では東部主要幹線2として扱うのですか。

【宇部市交通局】

東部主要幹線2の一部としていますが、引き続き利用状況を確認しながら、地元と話し合い運行頻度等を調整していきます。

【委員】

等間隔運行とは、宇部新川駅から定刻に一斉に出発するということですか、それとも何分か毎に出発するということですか。利用者が使いやすい等間隔運行とは、行き先はどこであれ等間隔に動いている状態だと思います。

【会長】

等間隔運行は、主要幹線7つそれぞれの方向に等間隔で運行します。

運行間隔が10分を切るくらいの頻度であれば等間隔の必要もありませんが、20分から30分くらい時間が空くのであれば、等間隔運行の方が利用者にとっても覚え易いので、潜在的な需要の喚起にもつながります。

路線再編の目的の一つは、主要幹線・幹線・支線などを明確にし、長大なバス路線を短くすることで、重複区間の効率化、遅れの解消などを図るものです。

【宇部市交通局】

平成28年10月のダイヤ改正で、宇部新川駅から中央病院方面の路線バスを9時から16時の時間帯に20分間隔で運行しています。

【委員】

主要幹線の時間帯を5分でもずらせば、路線バスが数珠繋ぎになることはないと思います。主要幹線でも路線バスが数珠繋ぎにならないよう努めていただきたいと思います。

【会長】

路線バスが数珠繋ぎになり効率が悪いというのは、本当に良く聞く話です。

宇部新川駅～常盤町二丁目の区間は、確かに数珠繋ぎになっているところを見かけますが、ほとんどの利用者はその区間外で乗り降りするため、それぞれが利用できるバスは限られています。

主要幹線7つで等間隔運行を目指すことが重要で、可能であれば宇部新川駅～常盤町二丁目の区間でも等間隔運行を実現してもらいたいです。路線バスの遅延等を考

えると難しいと思います。

主要幹線の等間隔運行は重要で、宇部市交通局にとってはすごく大事な商品なので、前面に打ち出していただきたいと思います。等間隔運行やラインカラー、系統の名称など宇部市交通局には様々な方法で周知してもらいたいと思います。

【委員】

下関方面からのバス路線の見直しで「等間隔運行のための時間調整を行う。」と書いてありますが、サンデン交通の路線は下関をメインに運行しています。他市に跨っている路線の時間調整は、どこが行うのでしょうか。

【事務局】

サンデン交通や船木鉄道の長大路線は時刻調整が難しいため、短い路線を運行している宇部市交通局に時刻調整をお願いしたいと考えています。

【会長】

全国の時刻調整の事例を参考にして、市の協力のもとで調整していただきたいと思います。

【会長】

ここで路線再編の方向性について了承を頂いたら、次はパブリック・コメントを実施することになりますが、この方向性で良いでしょうか。

(異議なし)

【会長】

この件については、承認とさせていただきます。

4 その他

【事務局】

パブリック・コメントについては、2月中旬以降を予定していますので、それまでに御意見等がある方は、事務局までお願いします。

次回の会議は3月下旬を予定していますので、よろしくをお願いします。